

第1回 アクティブステージ研修

令和4年7月28日(木)

講演 「子どもの遊びを通して垣間見る発達と学び」

講師 奈良教育大学 教授 廣瀬聡弥氏



1. 幼児理解について

幼児を理解するとは

一人一人の幼児と直接に触れ合いながら、幼児の言動や表情から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その幼児のよさや可能性などを理解しようとする。 (文部科学省(2018) 幼児園教育要領解説)

子ども理解においても一度理解すると固定概念をもちがちになる…

見取りをとる上では、目安は必要であるが…

- 幼児を肯定的に見る…様々な幼児の姿を発達していく姿として捉える。
- 活動の意味を理解する…幼児が活動で実現しようとしていることを理解することが必要である。
- 発達する姿を捉える…「何かができるようになること」ではなく、人格の全体に関わる深い意味をもつ。行動から幼児が発達しようとしている姿を捉える。
- 集団と個の関係を捉える…集団としての姿と一人一人の姿とは、互いに独立したものではない。全体を捉えていくことで、一人一人の発達やその子らしさもよく見える。
(文部科学省(2019) 幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解に基づいた評価)

2. 子どもの発達

- ピアジェの認知発達理論 … 外界に自ら働きかけることによって、世界の認識を形成
(基本概念:「シエマ」「同化」「調節」「均衡化」「操作」)

3. 現在の遊び理論と保育

- 遊びはなぜ必要? … 子どもの行動には何かしら意味がある。
- 保育における遊びの位置づけ
 - ・遊ぶことの本質、楽しいに注目
 - ・幼児教育・保育の根幹は、多様性と想像力の育成
 - ・設定保育-guided play-free play の存在
 - 子どもと対話しながら遊ぶ
 - ・遊びを含んだ学習 (playful learning) といった子ども中心のアプローチの方が、子どもの発達を助ける。
(e.g., Hirsch-pasek et al., 2009)

4. 遊びの読み取り

遊び込むとは?…遊びがある程度継続し、子どもが没頭、没入している状態

例: トイを使った遊び (ジャンプ台の出現) 「ボールをより遠くへ転がしたい! しかし、到達点を越えない!」

| | |
|--|---|
| <p>■ピアジェ</p> <p>すでに習得された行為を様々な対象物に反復して用いる行為 (ピアジェ, 1962)</p> | <p>これまでの経験</p> <ul style="list-style-type: none">・勢いを付けて投げる・コースがガタガタしているので円滑にする・ボールの色によって速さが異なることを試す・コースが汚れているのでキレイにする |
| <p>■ヴィゴツキー</p> <p>遊びより快適をもたらす活動は多数ある。遊びを楽しむに基づく行動と定義するのは正しくない →子どもは「頭一つ飛び出た」行為をする (ヴィゴツキー, 1933, 1976)</p> | <p>想像し創造 (頭一つと飛び出た?)</p> <p>コースをキレイにする + 勢いを付けて流す + 後ろから水を流す</p> |

5. グループワーク(8グループで話し合い、発表する)

先生が「えー!」と思った子どもの行為や遊びはどのようなものですか?理由や環境も含めて、話し合う。



平均台を渡る遊び(3歳児)

一人の子がトカゲのように這いながら渡っている。その動きを見て、他児も真似をして渡り始め、大行列になった。

→リズム遊びでピアノに合わせてトカゲなど動物になり遊んだ経験が活かしているのかも?(理由)

→立ったまま進むことは少し怖い、一人で渡る方法を考え出したのではないかと?(理由)

真似をすることは大事なことである。

色水遊び

お気に入りの色水ができて遊んでいる。急に、自分の服に色水をかけ始める。

→自分の服をお気に入りの色で染めたかったのかな?(理由)

子どものひらめきや発想

→隠れた遊びにも学びがあり認めていく事が大切である。

流しそうめん遊び(4歳児)

トイを繋げてそうめんを流す遊びを楽しんでいる。皿を流し始めたことで、回転ずしに遊びが変化した。

想像性

→いくつかの要素から生まれた遊び。体験が充実しているからこそ生まれた遊びである。

ペットボトルの玩具(0歳児)

保育者がペットボトルをクルクル回すと、中に入っているテープの動きが気になる子ども…

中身をビーズ等に变化させると、子どももクルクルと回し始める。

→子どもが何に興味を示すのかを読み取り遊びを変化させたり提供したりしている。(環境)

保育者が子どもの気づきに対しての優しい見守りが大切である。

【参加者の声・気づき】

- ・ 良い保育とは幸福度(子どもが幸せを感じる)が得られるようなスキルを身につけてあげることや、想像性(発想)は様々な経験を組み合わせることで出来るものであることを学びました。
- ・ 発想は知識・経験から得られることを知り、子ども達に何を体験してほしいかを考えるきっかけになりました。
- ・ 隠れた遊びの中にたくさんの学びがあること、停滞や後退することも発達には大切なことであると気づきました。
- ・ 保育とは「おもしろい」「難しい」、そして「奥が深い」。その奥深さを保護者にどう伝えるのかが大切である。という言葉がとても心に残っています。
- ・ 同じ子どもでも視点の違いで見え方が違うということや、柔軟性をもって保育していきたいと感じました。
- ・ 安心安全な場であるからこそ少し危ないことにも挑戦したくなることなど子どもの内面を改めて聞くことができました。大人になって見えなくなったことを見られるよう、子どもの立場に立ったり見守ったりしていきたいと思いました。
- ・ グループワークでは、子どもの姿や声に耳を澄ませること、肯定的に捉えることで子どものおもしろさをもっと見つけていけると感じました。
- ・ 子ども達の行為には理由があり、何故そうしたのか何が楽しいのかを考え、その姿を十分認めてあげる担任でありたいと感じました。

作成者 幼児教育アドバイザー 前田 美穂